

医療事故の再発防止に向けた提言 第2号
「急性肺血栓塞栓症に係る死亡事例の分析」
に関するアンケート

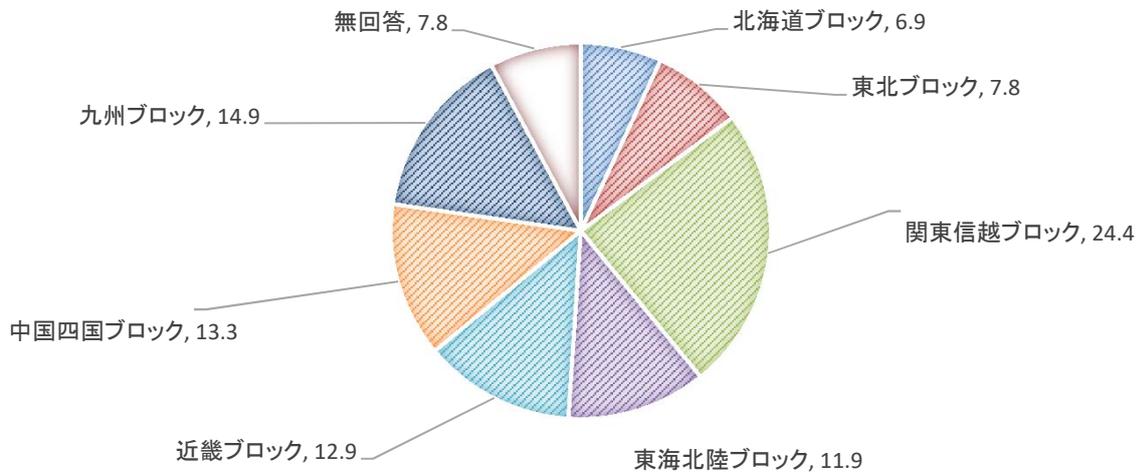
調査結果

- 平成30年2月～3月15日 第3号「注射薬剤によるアナフィラキシーに係る死亡事例の分析」配布時に同封した。
- 8427か所の病院に、配布 1367件を回収 回収率 16.2%

[問1] 貴施設についてお答えください。

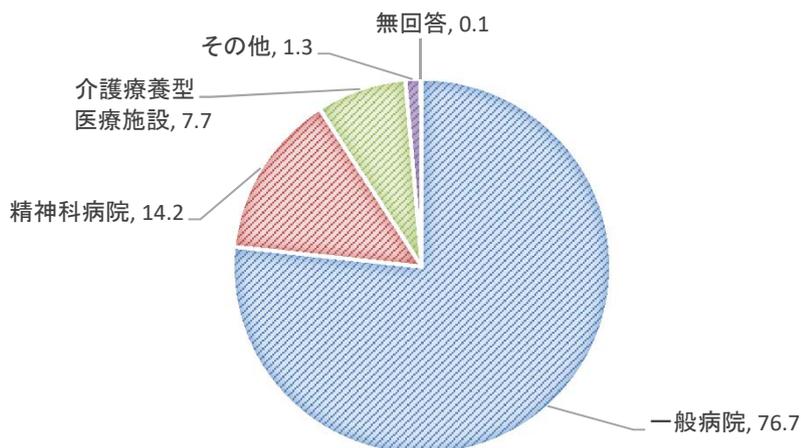
1-1. 地域ブロック別
(N=1367)

(%)



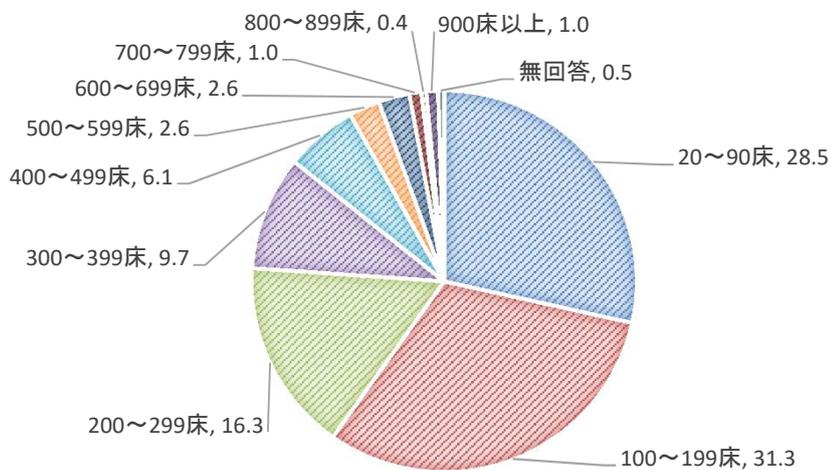
1-2. 医療機関の種類
(N=1367)

(%)



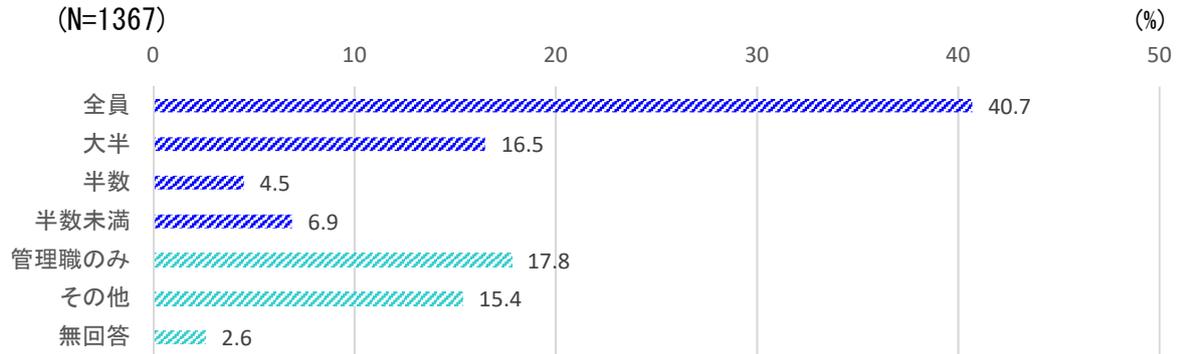
1-3. 病床数
(N=1367)

(%)

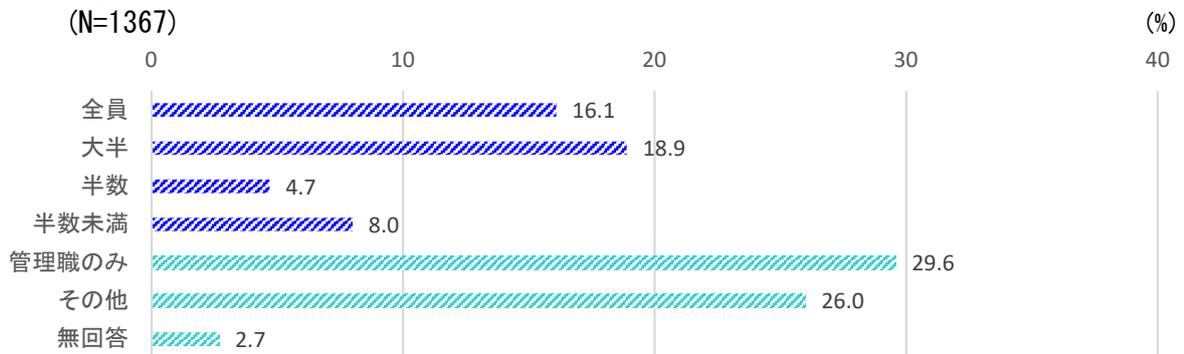


[問2] 「急性肺血栓栓塞症に係る死亡事例の分析」提言書に目を通した、または、配布した状況を対象者別に教えて下さい。

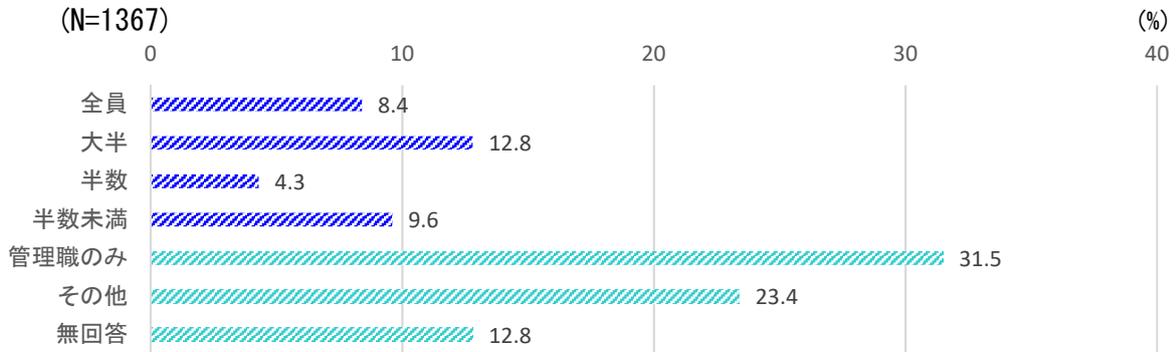
2-1. 医師



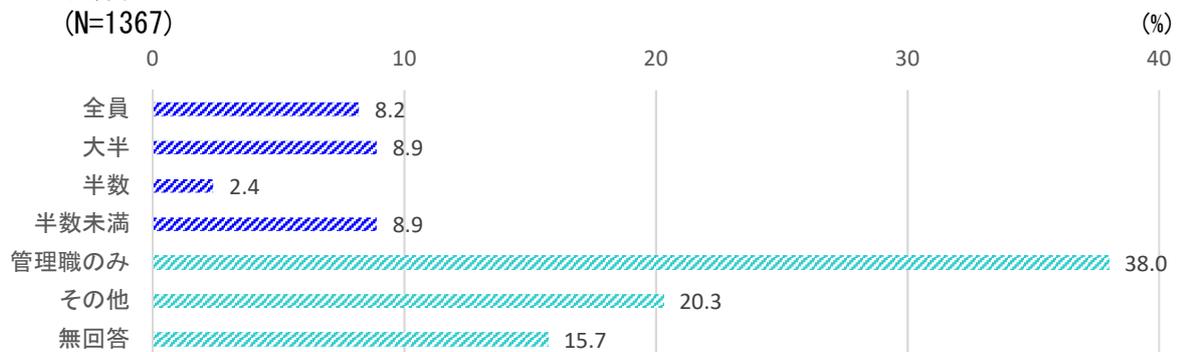
2-2. 看護師



2-3. その他医療職



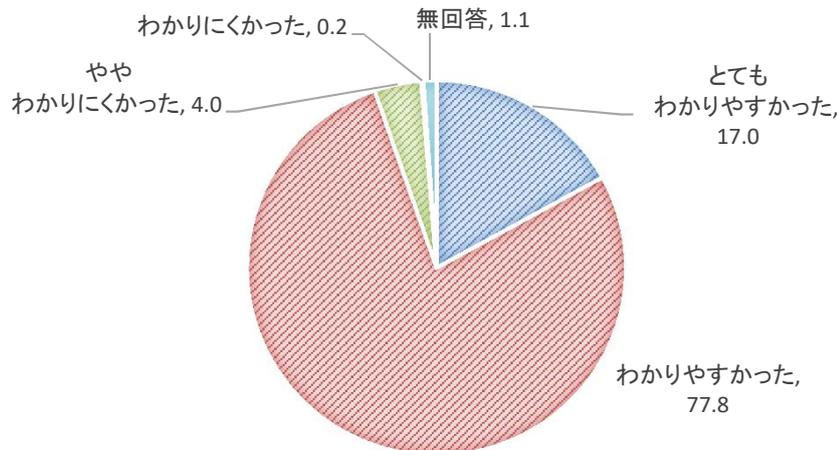
2-4. 事務職



[問3] 提言1～6の内容（提言書のP12～19）は、わかりやすい内容でしたか。

(N=1367)

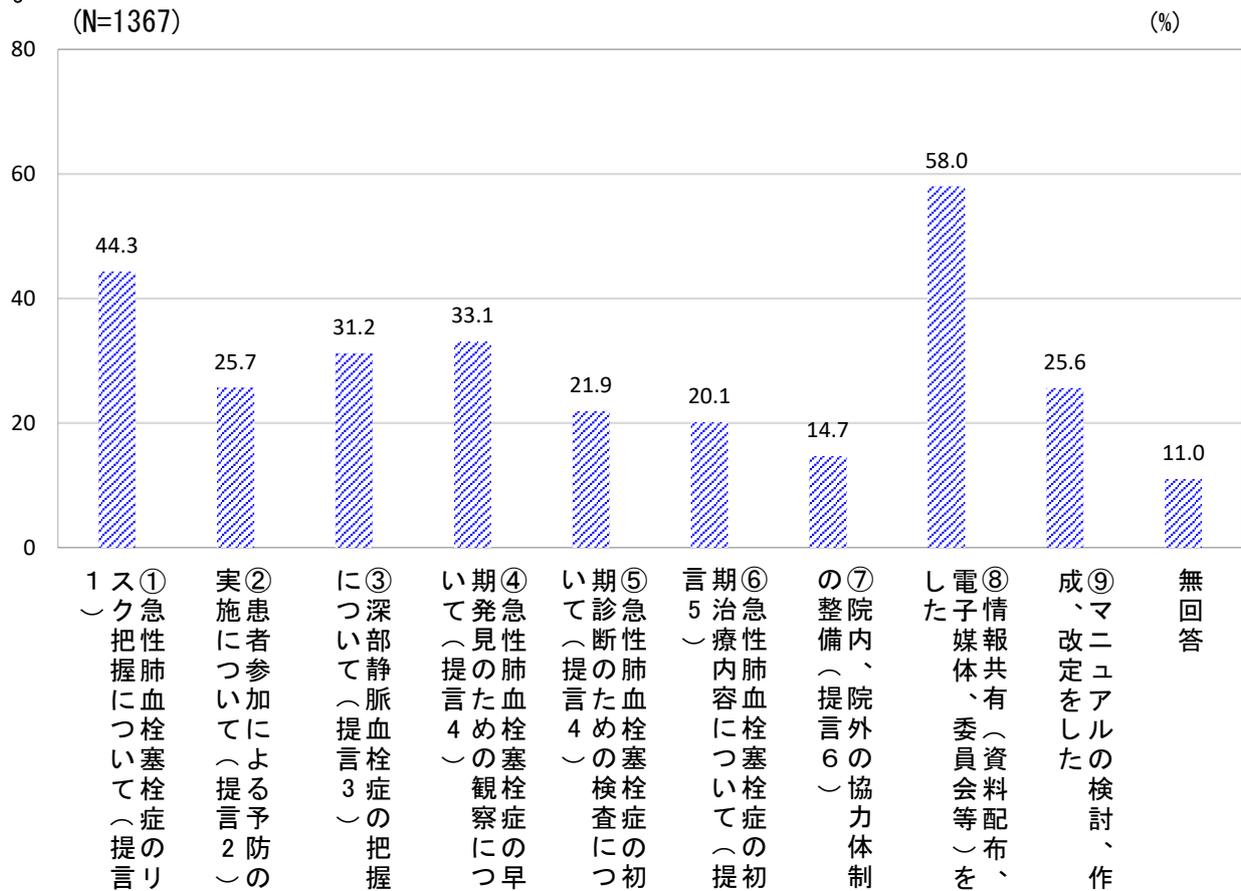
(%)



【ご意見】自由回答内容（一部抜粋）

- ・実践につなげる提言でわかりやすかった。
- ・詳しく分かりやすく記載させていたので良かった。
- ・対象事例の概要が良かった。
- ・各提言がポイントとして書かれてあり、マニュアルとして活用しやすいと思った。
- ・事例に基づいての解説もあり、提言は特に具体的に記されているので、イメージがしやすかった。
- ・当院でも担当チームを結成していく必要があると学んだ。
- ・具体的な事例が載せてあり、院内での勉強会に使いやすく教育に役立った。
- ・今後同様の事例が発生した時のことを考え、とても勉強になりました。また、処置対応手順が見直しとなり、スタッフに周知することができ、活用できる資料となりました。
- ・総合診療所のない単科病院にとっては、リスクの把握、予防、早期発見。速やかに治療、精査できる病院へアクセスすることの重要性を再認識する内容でした。
- ・当院において15年前、急性肺血栓塞栓症による死亡事例があった。その頃は対策等の情報はなく手探り状態だった。その時の思いも徐々に薄れてきており、今回の提言書により、みんなで再認識することができた。
- ・いつどこで発症してもおかしくない事です。知識があれば早期発見にもつながると思いました。
- ・専門的すぎる。小規模の病院は、“専門的施設と連携をとる”ことは容易ではない。専門的施設がオープンになってもらいたい。
- ・内容が今までのガイドラインとあまり変わらず、特に新しく何かに取り組む必要が見当たらなかった

[問4] 提言書の内容について、貴施設で検討もしくは実施した項目すべてを選んでください。

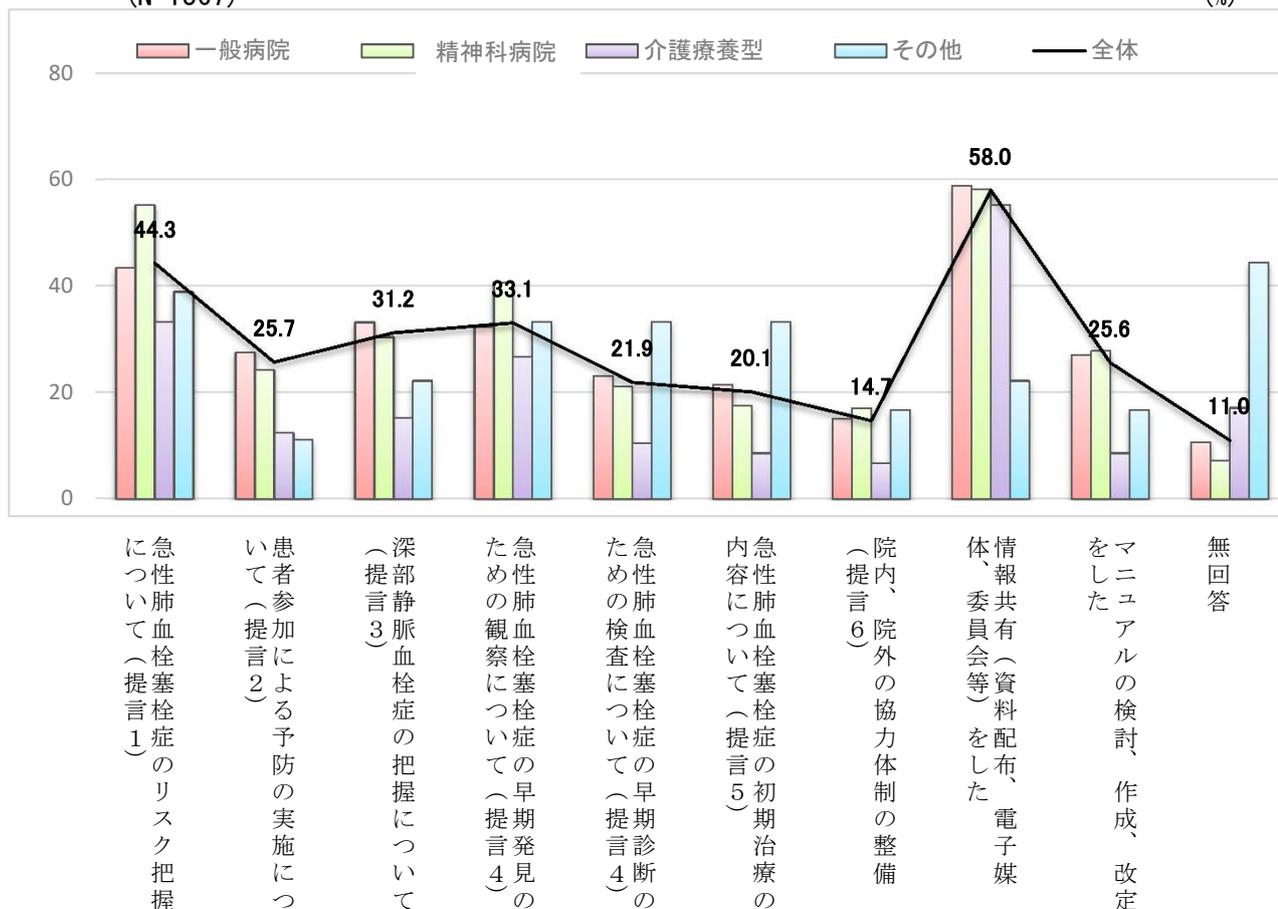


【ご意見】自由回答内容

① 提言1	電子カルテにてリスク評価や予防対策等のテンプレートを作成中であり参考した。
	入院患者全員スクリーニングとした。
	リスク評価表を作成。
② 提言2	入院時オリエンテーション配布資料の見直しと患者配布用パンフレットを改訂。
	予防対策の実施、フットポンプの導入。
③ 提言3	深部静脈血栓のスクリーニング表を改訂した
	Dダイマー導入、下肢静脈エコーも追加することになった。
④ 提言4	NSの観察力向上が早期発見に重要と分かったので、各部署師長に周知をお願いした。
	早期発見のため、拘束中はSpO ₂ 測定し評価する。
	医師、看護師で連携を図り、症状の観察とその報告を行う事で、早期対応につなげている。
⑤ 提言5	他医療機関へ紹介するようになった。
⑥ 提言6	各病棟のヘパリンの配置状況について確認した。
⑦ 体制整備	他施設との医療安全相互チェックのテーマとしたワーキンググループを立ち上げた。
	近隣の大学病院と連携を取るようしており、連絡方法の再認識を行なった。
⑧ 情報共有	医療安全委員が資料の配布と、内容についての把握がされているかの病棟ミーティングを実施し、対応の確認を行った。
	当院の静脈血栓プロジェクト会議で、提言について検討した。
⑨ マニュアル	「静脈血栓塞栓症リスク評価表」を見直し作成。手術、非手術で分け作成した。
	院内でマニュアルの見直しが必要ではないかという意見があり、取り組み始めていたところであり参考になった。

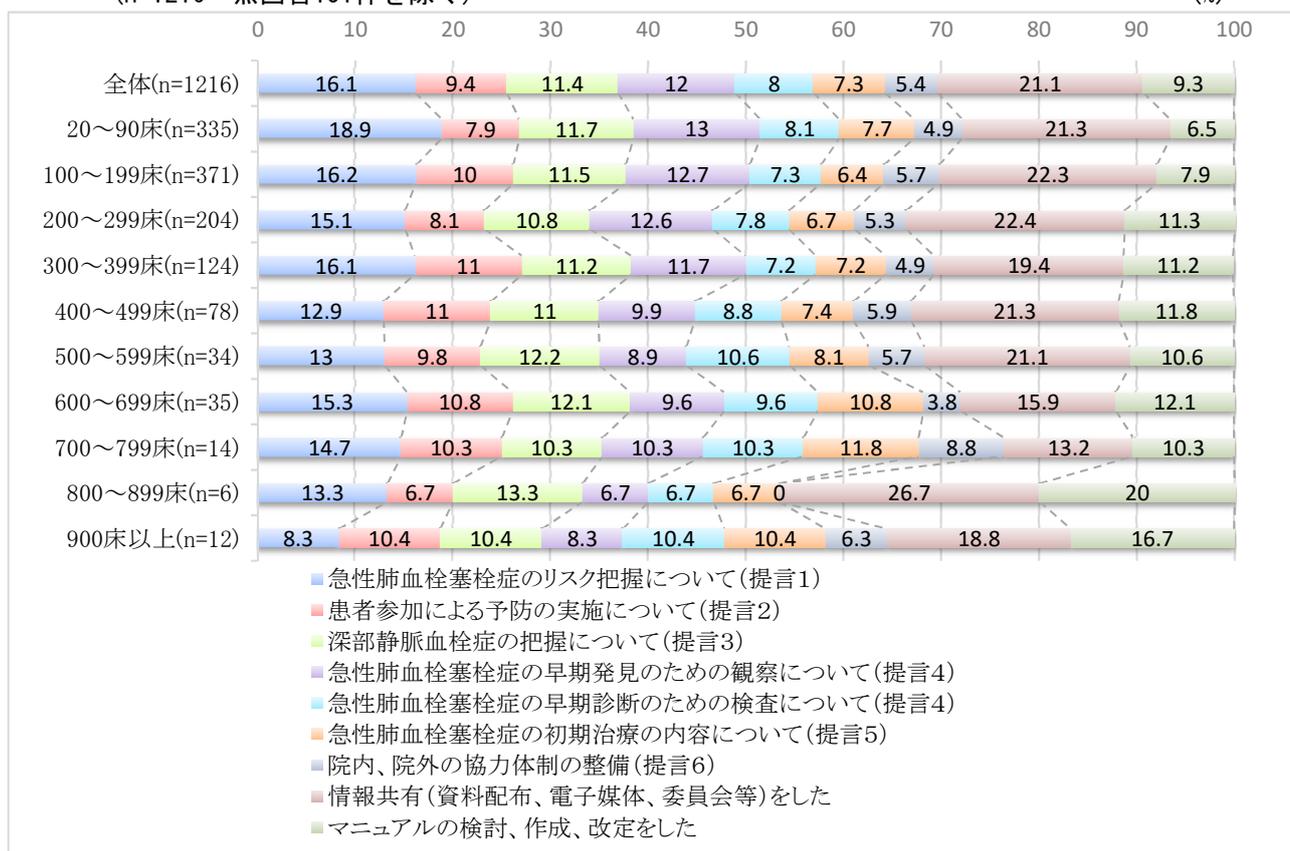
[問4] 提言書の内容について、貴施設で検討もしくは実施した項目すべてを選んでください。

<問4×医療機関の種類別>
(N=1367)



<問4×病床数別>

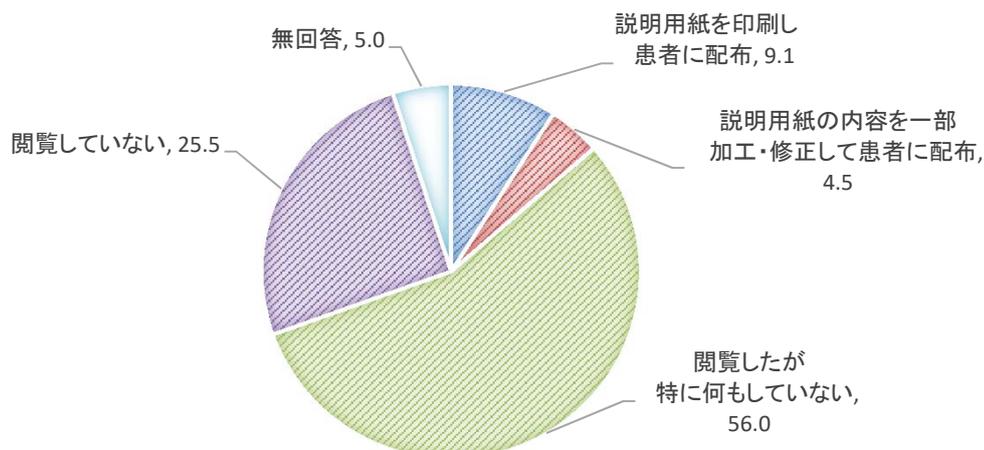
(n=1216・無回答151件を除く)



[問5] ホームページに掲載している「安静臥床中の患者に向けた説明用紙」を使用されましたか。

(N=1367)

(%)



【ご意見】自由回答内容 (一部抜粋)

- ・今回のものは一枚で、簡便でわかりやすいため活用しやすいです。
- ・大きく拡大し外来に掲示。病棟はそのままの大きさで掲示。電カル内に載せた。
- ・すべての床頭台に設置した。PDFファイルではない、エクセル、パワーポイントの方が使用し易い。
- ・今後患者へ配布する予定。
- ・病院で作成した説明書、及びパンフレットを使用しているため使用していない。

[問6] その他、提言書に関するご意見をお聞かせください。

【ご意見】自由回答内容 (一部抜粋)

- ・事例の背景、経過、対応などから身近に感じられ、「いつでも起こりうる」という危機感を持つことができ、提言書は有効だと思う。
- ・医療事故報告制度によりこのような成果物となることを周知することができています。報告の効果を感じてもらおう一助となっております。
- ・提言の発行は、院内の医療安全対策を整えていく上で助けになる。
- ・造影CTやエコーのできない病院の環境があり、その中で提言書を元に行える範囲でリスク対策をしっかり行いたい。
- ・マニュアル整備の必要性を痛感している。
- ・提言書が足りず、少ない場合、再度発注することができるのか。印刷して配布するが、やはり冊子にする方が残りやすい。
- ・各病院に送付する冊子の数は、病院の規模に応じて変えるべきだと思います。当院には多すぎます。
- ・ページ数の多いものは目を通してもらいにくいですが、適度なボリュームなので、会議の時にも目を通してもらいやすかったです。
- ・当院では発生していない事例などを通し、事故を起こさないための意識付けになっているので、今後も提言書による情報提供をお願いします。
- ・提言書の周知が難しい。他の施設ではどうしているか？
- ・院内研修会実施の際に使用できる資料がネットにあればありがたいです（パワーポイントなど）。